

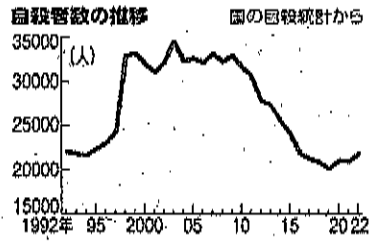
「奨学金返済苦」自殺動機に

22年10人「氷山の一角」指摘

2022年の自殺者のうち、理由の一つとして奨学金の返済を苦にしたと考えられる人が10人いたことが、警察庁などのまとめでわかった。自殺者の統計が同年から見直され、原因や動機に奨学金返済の項目が加わったことで初めて明らかになった。国は、返す必要のない給付型奨学金の拡充などを打ち出しているが、職者や支援者は「いま返還している人への施策が必要」「人数は氷山の一角だ」と指摘する。

国の統計項目加わる

警察庁や厚生労働省によると、原因や動機は、各都道府県警が自殺と判断した事案で、遺書や遺族への聞き取りで分かっ



- 2022年の統計から新しく入った主な項目
- 奨学金の返済苦
 - 病気の悩み・影響(摂食障害)
 - 解雇・雇い止め
 - 過激なノルマ・ノルマの不達成
 - 交際相手からの暴力(DV被害)
 - ストーカー行為等
 - SNS・インターネット上のトラブル
 - 性的少数者であることの悩み・被差別
 - 家族・同居人・交際相手以外からの虐待・暴力被害

SNSや性的少数者の悩みも

22年から分類細分化
統計によると、2022年の自殺者数は2万1881人だった。前年から874人増え、2年ぶりの増加となった。原因・動機については、22年から分類が細分化された。新たな項目が作られた。加わったものは「SNS・インターネット上のトラブル」(該当者数は33人)、「性的少数者であることの悩み・被差別」(同31人)、「解雇・雇い止め」(同88人)などがある。

たものを、「親子関係の不和」「仕事の失敗」といった選択肢の中から選んで分類する。22年からはこの選択肢を細分化して新たな項目を作り、52から75に増やして選べる数を最大三つから四つにした。新たな項目として「奨学金の返済苦」が作られた。奨学金が原因や動機の一つとされた10人の内訳

は、20〜30代の男性6人と、10〜20代と40代の女性4人だった。奨学金利用者の多くは給付型ではなく、返す必要がある貸与型を利用する。日本学生支援機構(JASSO)で21年度に奨学金を利用した学生は148万人。うち、貸与型はおよそ8割を占めた。一般的に卒業後の返還期間は12〜20年に及ぶ。人によっては、返還額は1千万円前後になる

今延滞している人の対応を
奨学金制度に詳しい桜美林大学の小林雅之教授の話。奨学金に関し、国も様々な施策をとり始めたが、これから進学する人や、延滞しそうな人などに向けられたものになっている。抜け落ちている人は、今延滞している人への対応だ。基本的に9カ月延滞すると、延滞した額に加え、延滞金を一括返済しなければいけない。延滞者には返還猶予などの措置が適用されないが、延滞しても少ずつ返せる仕組みがあった方がいいのではないか。

奨学金返済の負担を訴える声は、近年多く聞かれる。労働・貧困問題に取り組むNPO法人「POSS SEI」(東京)などで作った、奨学金に関する相談や調査を行う「奨学金帳消しプロジェクト」は昨年、JASSOの奨学金を返還中、または過去に返還していた人を対象にアンケートを行った。約2700人の回答のうち約3割が「返還を延滞したことがある」と回答。返滞している人は、大学進学への給付型奨学金を、中間層のうち、多世代や理工農系の学生が

◆悩みの相談先
#いのちSOS
0120-061-338 月、火、金曜は24時間 その他の曜日は午前6時~翌日午前0時
いのちの電話
0120-783-556 毎日午後4~9時
生きづらびっと
LINE @yorisoi-chat
あなたのいばしょ
オンライン相談 (https://talkme.jp/)
奨学金問題対策全国会議
03-6453-4390
POSS SEI
03-6693-5156 火、木曜の午後6~9時、土日祝日の午後1~5時。相談フォーム (https://forms.gle/2TnvUeZTtt5hjsAB6) もある

自由記述欄には「うつになり自殺未遂を繰り返した」「自己破産の未了か見えず、(死にたいという)希死念慮にさいなまれている」といった声が集まった。国は、奨学金制度の改革を進める。今返還している人の負担軽減のため、来年度から、月々の返還額を減らせる制度の利用条件を緩和する。同じく来年度からは、大学生らへの給付型奨学金を、中間層のうち、多世代や理工農系の学生が

いる世帯にも広げる。奨学金帳消しプロジェクトのメンバーの岩本菜々さんの24歳は、10人という人数は遺書などで明らかになった人だけで、奨学金返済を苦にして自殺した人は実際はもっと多いはずであり、「氷山の一角だ」と話す。岩本さんが指摘するのは、今、返滞に困っている人への国の施策の少なさだ。返還猶予や月々の返還額の

減額制度はあるが、先延ばしになるだけ。延滞者の多くは収入が少なく、将来的な見通しも持てずに精神的に追い詰められているという。さらに、家族ら、保証人に請求がくることがを恐れて、自己破産でなく自殺を考え、返す人はいくつと指摘。「返す人は多いと指摘。」「返す人への負担を減らすことを考えてもいいのではないか」と話した。(山本知佳、菅原美穂)